

看護師のお仕事

看護の始まり ～ナイチンゲール～

近代看護の母と言われるナイチンゲールは、「看護」は“病気”の看護ではなく、“病人”の看護である、と説いた最初の人である。彼女は、また“病気とは別のところからくる彼らの苦痛で、その人の苦痛を取り除くのが看護であり、医術としての看護が統合されて一つになって看護が行なわれる、という言葉を残している。これら看護についての考えは、貴族の家に生まれ教養の高かった彼女が、ヒポクラテスが著した本をヒントに確立していったものである。ナイチンゲールがヒポクラテスに学んだその考えとは、「医術とは一切の障害を避けて自然の治癒を待つことだ」というもの、また「6つの自然のままに放つとかないこと」というものであった。彼女はこの6つの自然、すなわち、『光と空気・食べ物と飲み物・運動と休息・眠りと目覚め・排泄・こころの動き』は、“頭を使い、経験を生かして整える”もので、病人は、“整える”ことを待っているから、まず病人の看護をしよう、との思いに至った。この考えのもと、“看護”が始まったとされている。

看護または看護師について

《ヘルスケアの土台》 医師による治療は、“ある時ある人に”、というところで必要な時に力を発揮する職業だが、看護は、“いつでもだれでも”を対象とするものである。健康に関する活動(ヘルスケア)では、看護が土台となる。

《看護対象となる疾患の変化》 過去には、けがやチフス、感染症、などが多かったが、今は、がんや心臓疾患、慢性疾患が増えてきている。

《看護の対象となる人》 平成37年には65歳以上の割合が約3割となり、65歳以下の世代は1.9人に1人の割合で65才以上の世代を支えることとなる。将来のこのような状況を踏まえ、看護協会は将来ビジョンを「ときどき病院、ほぼ自宅」とした。この実現のために立てた6つの柱、すなわち、①健やかに生まれ育つ ②健康に暮らす ③緊急・重篤な状況から回復することへの支援 ④住み慣れた地域に戻ることに支援 ⑤疾患・障害とともに暮らす支援 ⑥穏やかに死を迎えることへの支援のうち、③～⑥が看護師の領域となっている。

《看護師になるまで》 中学卒業後に5年一貫の看護高校へ、もしくは高校卒業後に専門学校や短期大学、大学へ進み、国家試験に合格して、看護師となる。

学校では、国家試験に向かうために、ただ知識や技術だけでなく、看護師にとって大切なコミュニケーション能力も学ぶ。

《就業場所》 80%が病院や診療所。他に、介護施設・学校・企業など。

《法律》 看護師は、保健師助産師看護師法(S23)第一章総則第五条の中で、“「看護師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。”、とその仕事内容が決められている。

看護の専門性

《専門看護師》13の専門看護分野(がん看護専門看護師、小児看護専門看護師等)において、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を果たし、看護の質向上に努めるものである。現在、全国で1,883名。岩手では16名。(人数は2017.7現在。以下同様)

《認定看護師》21の専門看護分野(糖尿病看護認定看護師、認知症看護認定看護師等)において、実践・指導・相談の3つの役割を持ち、看護ケアの広がりや質の向上をはかるものである。現在、全国で18,728名。岩手では175名。

《認定看護管理者》病院や介護老人保健施設などの管理者として必要な知識を持ち、患者・家族や地域住民に対して質の高いサービスを提供できるよう組織を改革し、発展させることができる能力を有すると認められた看護師。全国で3,328名。岩手では31名。

病棟看護師の一日(一例)



このはちゃんとまことくんは、当大学看護職員キャラクターです。

看護師を続けるために

◆良い看護を提供するためには、元気でいつづけることが大事。

そのために・・・

- ♪ 自分を大切にする(時間管理・こころとからだの健康管理)
- ♪ 家族の協力を得る
- ♪ ライフイベントに合わせた働き方
- ♪ 組織で看護が継続できる環境をつくる

以上がポイントとなる。

これらの実現に向けた1つの取り組みとして岩手医科大学附属病院看護部では、産休や育休中の看護師に対して、リーママ通信の発行やリーママトーキングカフェの開催等の活動を行なっている。

リーママ:サラリーマンママの略。働くママ全般のこと。

★ 看護の3K 昔と今 ★

昔: きつい・きたない・給料が安い → 今: 気品・謙虚・感性 ♪♪